

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2016年10月）

目 次

内 政

- ◆コヴァーチ初代大統領の逝去 2
- ◆与党Smer党大会 2
- ◆政党支持率調査結果 2

外 政

- ◆オルバーン・ハンガリー首相のスロバキア訪問 3
- ◆V4大統領会合 3
- ◆ダライ・ラマ14世のスロバキア訪問 4

社 会

- ◆ブラチスラバ環状自動車道（バイパス）の起工式 4

経 済

- ◆経団連訪欧ミッションのスロバキア訪問 4
- ◆コシツェにおける大型投資の可能性 5
- ◆モホウツェ原発新規原子炉の工期延長の可能性 6
- ◆スロバキア中央銀行月報（10月） 6

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆コヴァーチ初代大統領の逝去（５日）

５日夜、ブラチスラバ市内の病院においてミハル・コヴァーチ(Michal Kovac)初代大統領が心不全で逝去した（享年８６歳）。１３日には国葬が営まれ、キスカ大統領、ダンコ国会議長、フィツォ首相、外国からはゼマン・チェコ大統領らが参列した。コヴァーチ大統領時代に政治的確執が大きな問題となったメチアル首相は葬儀に招かれなかった。

◆与党Smer党大会（２２日付スメ紙）

２２日に開催された最大与党Smer-SD（方向-社会民主主義，中道左派）の党大会党大会では，金銭疑惑の渦中にあるカリニャーク内相の存在が目立たなかった一方で，マジヤリチ文化相がメインスピーカーとして党の新綱領を発表し，現在の党上層部の力関係や，世代交代が見込まれる１２月の党大会に向けた動きが垣間見えた。また，党大会においてフィツォ首相は次の選挙での勝利に対する意欲を示した。

【Smer新綱領の主要ポイント】

- 最低賃金引き上げを継続
- 金融取引に対する新税導入を支持
- 若者向け賃貸住宅建設を促進
- 各種企業の振興を通じて地方経済を支援
- 汚職との戦いを支援
- EUの国際貿易協定批准に際する各国議会の意向尊重の必要性を主張
- 目に見える形でのEU域外国境の管理強化の必要性を主張
- EUの中核国、責任あるNATO加盟国であることがスロバキアの国益であることを確認

◆政党支持率調査結果（３１日）

世論調査機関Polisによる１０月の政党支持率調査の結果は以下のとおり。連立与党のSmer, SNS, Most-Hidはいずれも一定の支持率を維持している。

政党	Polis	３月の選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	27.1%	28.3%
SaS（自由と連帯）	14.0%	12.1%
SNS（スロバキア国民党）	14.0%	8.6%
LSNS（我々のスロバキア）	10.1%	8.0%
OLaNO－Nova（普通の人々・独立した人達－新たな多数派）	8.5%	11.0%

Most-Hid（架け橋）	8.2%	6.5%
Sme ridina（我々は家族）	6.8%	6.6%
KDH（キリスト教民主運動）	4.6%	4.9%

外 政

◆オルバーン・ハンガリー首相のスロバキア訪問（7日）

フィツォ首相は、ブラチスラバを訪問したオルバーン首相と共に共同宣言を発表し「難民割り当て制度の是非を巡るハンガリーの国民投票の結果を全面的に尊重しており、また国民投票は正当かつ民主的な手段であると考えている」と述べた。

両首相は欧州情勢の他、二国間関係を取り上げ、フィツォ首相は「スロバキアとハンガリーの二国間関係は、良好な雰囲気の中で、あらゆる分野で発展しており、これまでの歴史の中で最高の状態にある」と強調した。オルバーン首相は難民割り当てに関する国民投票で示された民意を条文に盛り込むことを目的として提出しようとしている憲法案について説明し、フィツォ首相はそれを全面的に尊重し留意する旨答えた。フィツォ首相はオルバーン首相に対して、スロバキアがEU議長国として移民問題に多くの労力を割いていくことを約束すると共に、現在、同問題については特に2つの重要な課題、すなわちシェンゲン国境の完全な管理と、欧州の大量移民流入の阻止に集中して取り組んでいく旨説明し「ブラチスラバでの非公式会合を含むEUの首脳会合を見れば、難民割り当ては既に政治的なテーマとしては死んでいるのは明らかであろう」と述べた。

◆V4大統領会合（14～15日）

キスカ大統領はポーランドで行われたV4大統領会合に出席し「V4は欧州において現在のように悪い印象を持たれたことはこれまでなかった。我々は、V4を自国政治を守る盾のように利用していないということを、我々の国の首相に認識させる必要がある。今回の大統領会合から送るべきシグナルは、V4は一つの団結した強固な欧州の中にあるということである」と発言した。

これに対しフィツォ首相は「キスカ大統領のV4批判は不適切である。V4が存在しなければ、スロバキアは難民割当を受け入れなければならず、ガス輸送に係るスロバキアの国益を守ることができなくなってしまうであろう。V4は悪い印象を持たれているわけではなく、キスカ大統領は彼の助言者に耳を傾けるのを少なくするべきである」とキスカ大統領を批判した。

◆ダライ・ラマ14世のスロバキア訪問（14～16日）

16日、キスカ大統領は、ブラチスラバを訪問したダライ・ラマ14世と会談を行い「自分にとって仏教とは、我々はどのように生きるべきか、我々の最大の敵は自分自身の心の中に潜んでいる、ということを見せてくれる哲学である」と述べた。その他、ダライ・ラマ14世は、シェベイ国会議員（与党Most-Hid所属）（当館注：国会外交委員長）、ポリアチク国会議員、ジウリショヴァー国会議員（共に野党SaS所属）及びチャーキ欧州議会議員（ハンガリー系政党SMK所属）とも面会した。一方で、スロバキア政府の閣僚は、ダライ・ラマ14世と会談を行わず、また、予定されていたブガール与党Most-Hid党首との会談は直前になってキャンセルされた。ダライ・ラマ14世がスロバキアを訪問するのは3度目であり、17日からはプラハで開催される「フォーラム2000」会議に参加する。

在スロバキア中国大使館は、今次ダライ・ラマ14世の訪問につき、批判的な反応を示し「スロバキアの政治家とダライ・ラマ14世の会談は、スロバキアが維持してきている“一つの中国”という原則に沿わないものであり、お互いの政治的信頼及び中国とスロバキアの二国間関係を傷つけ、両国の友好的な協力関係とスロバキアの国益を損ねている」との声明を発出した。後日フィツォ首相は「スロバキアの国益よりも個人のイメージを優先した」とキスカ大統領を非難、またライチャーク外相は林琳中国大使と会見し「一つの中国」の原則を確認した。

社 会

◆ブラチスラバ環状自動車道（バイパス）の起工式（25日付Dennik N紙）

エールシェク交通・建設・地域開発大臣は、ブラチスラバ環状自動車道（全長59km）の起工式に出席した。建設に必要な許可と用地を全て取得しておらず、また考古学や地質学の調査を行うため、本格的な建設が始まるのは2017年の3月からとみられる。完成予定は2020年10月であり、ブラチスラバ東部の交通渋滞解消が期待される。建設はオーストリアのPorr社、融資はオーストラリアのMacquarie銀行、管理運営はスペインのCintra社が担当し、国は建設・運営費用として年間5700万ユーロを30年間払い続けることになる。

経 済

◆経団連訪欧ミッションのスロバキア訪問（19日）

経団連訪欧ミッションはスロバキア訪問し、フィツォ首相、ライチャーク外相、ジガ経済相、ペレグリニ投資担当副首相、シモンチチ・スロバキア投資貿易開発庁長官、ミホーク・スロバキア商工会議所長らと会談を行った。

【外務・欧州問題省プレスリリース】

ライチャーク外相は会談の中で「日本はスロバキアにとり重要な経済パートナーであり、日本との政治対話及び経済関係の発展に向けあらゆる可能性を活用している」と述べると共に、日本企業はスロバキアにおいて最も早い時期に投資を行った投資家そして最も信頼のおける投資家に含まれると強調した。

現在、スロバキアでは約50の日本企業が進出し、1万人近くの雇用を創出している。ライチャーク外相は「今回の経団連訪問は、日本の投資家が引き続きスロバキアに関心を有していることを示している。我々の目標は、特にハイテク製品の分野や研究・イノベーション分野で協力を深めることであり、現在のところは自動車産業、電機産業、再生可能エネルギー分野でその具体的な可能性を見いだしている」と述べ、スロバキアと日本の経済協力の発展において大きな役割を有する経団連の活動の重要性を強調した。

【経済省プレスリリース】

19日、ジガ経済相は経団連のミッションと会談を行い、スロバキアに対する直接投資及びEUと日本の戦略的パートナーシップについて話し合った。スロバキアは二国間関係の発展と両国間の活動の活発化を支持しており、スロバキアにおける日本の投資は大きな可能性を有していると考えている。スロバキアは現在そして将来の日本からの投資を積極的に支援していく用意がある。また、日本企業にとり戦略的に重要な地理的位置を占め、高い労働生産性を誇り、経済的・政治的に安定したユーロ圏のメンバーでもあるスロバキアは欧州市場へのゲートウェイともなり得る国である。日本の投資家からは、特に自動車産業、電機産業、プラスチック産業においてスロバキアへの直接投資に関心が示されている。現時点において既に日本企業はスロバキアでの雇用創出において大きな役割を果たしている。

◆コシツェにおける大型投資の可能性（19日付経済新聞）

アジアの企業がコシツェ市において1000名近くを雇用する1億ユーロ規模の投資を検討していることが判明した。企業名は明らかとなっていないが、自動車産業にも製品を供給する電機メーカーであり、既にジガ経済相やラシ・コシツェ市長とも協議を行ったとみられる。この投資には研究開発も含まれている可能性があり、スロバキアは他の東欧諸国と誘致を競っている模様である。経済省は「継続中の協議についてはコメントしない」との立場であるが、同省のスタノ報道官は「東スロバキアを含む失業率が高い地域に重要な投資を誘致することは、経済省の優先事項である」と述べた。他方、コシツェ市長補佐官のマルコ氏は、アジア企業の代表者とラシ・コシツェ市長が面会したことを認め「もうすぐ、新たな雇用創出に関する良いニュースをコシツェ市民に伝える

ことができると確信している」と述べた。

◆モホウツェ原発新規原子炉の工期延長（19日付スメ紙）

スロバキア電力会社のモホウツェ原発第3及び第4原子炉は30年近く経った現在でも完成していない。この第3及び第4原子炉の完成予定時期は当初の2012年及び2013年から既に何度も先延ばしされているが、再び工期は延長される見通しである。原子力監督庁のホスチョヴェツカー報道官によれば、これまで本年11月とされてきた第3原子炉の完成は早くても来年秋の終わり、第4原子炉の完成は更にその1年後になるとのことである。

モホウツェ原発の第3、第4原子炉が採算の取れるものであれば、その稼働は国庫にも歳入をもたらすことになる。2基の原子炉が発電する電力量はスロバキア国内の企業や家庭で全て消費されることはないとみられることから、余剰分は輸出に回される。また、第3及び第4原子炉稼働後、スロバキア電力会社の34%の株主である政府にはその利益から配当金が支払われることになる。しかし問題は低い電力の買取り価格であり、現在は1メガワット時あたり35ユーロと、フィツォ首相が第3、第4原子炉建設を決めた9年前と比べて約50ユーロ低い水準にある。

◆スロバキア中央銀行月報（10月）

1 GDP

ユーロ圏の鉱工業生産は、7月の自動車産業における夏期休暇に伴う生産中断を終え、8月に入り再び増加した。今のところユーロ圏の経済指標は、生産面からも消費面からも経済成長が継続することを示している。

8月のスロバキアの経済指標は他のユーロ圏の国々と類似したものとなった。鉱工業生産は、主に自動車産業で生産増加により回復し、これは輸出の増加につながった。また、売上の成長は継続している。第3四半期の前期比での経済成長率は0.9%前後と予測される。

2 労働市場

8月の雇用率は前月比で0.4%上昇し、堅調な改善傾向を継続させた。前年同期比では2.7%上昇した。経済全体における雇用率の動きは、今後しばらくの間概ね明るい見通しである。

9月の失業率は若干の低下にとどまった。季節調整前の登録ベースでの失業率は前月から0.01%下がり9.42%であり、失業者数は約4000人減少した。

平均賃金は、8月に入り前年同期比で5.1%上昇し867.6ユーロとな

った。特に、企業の堅調な収益に後押しされた労働力需要の高まりが、賃金の上昇を再び加速させている主な要因とみられる。

3 物価

9月の物価は前年同期比で0.5%下落した。前月比では変動がなかった。燃料価格は前月比で2.1%の上昇であった。他方、食料品価格の下落は本年末まで続くと予測されているが、来年初めには前年同期比ベースで若干上昇すると予想される。10月の物価は下落率の緩和傾向が続き-0.4%と予想される。本年末には物価が上昇に転じるとみられる。

4 貿易

8月の輸出は前月比で18.5%と大きく増加したが、前期比では輸出、輸入ともに停滞した。前年同期比では商品輸出が18.5%、商品輸入は15.9%それぞれ増加し、貿易黒字は1億200万ユーロに達した。

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

